

令和3年 9月 16日

関係者各位

産総研コンソーシアム
持続性木質資源工業技術研究会
事務局

第46回研究会開催のお知らせ

拝啓 平素より、本研究会活動にご協力いただきありがとうございます。

さて、来たる10月8日(金)に、【別紙1】の要領にて第46回研究会を開催いたします。

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス拡大防止のため、全面 WEB での開催となりました。皆様ご理解のほど、よろしく申し上げます。

今回、取り上げるテーマは、『カーボンニュートラル社会に向けて木質資源を考える』です。

2020年10月、日本は、「2050年カーボンニュートラル」を宣言しました。また、2021年4月には、2030年度の新たな温室効果ガス削減目標として、2013年度から46%削減することを目指し、さらに50%の高みに向けて挑戦を続けるとの新たな方針も示されています。これを受けて、『グリーン成長戦略』が発表され、経済と環境の好循環を作り出すための産業政策が示されました。温室効果ガス排出の8割以上を占めるエネルギー分野の取組に重点を置きながら、成長が期待される14分野の産業には高い目標を設定し、あらゆる政策を総動員するとされています。

木質資源に目を向けたとき、この戦略の中では、食料・農林水産業で主に取り上げられ、バイオマス発電によるエネルギー利用のみならず、二酸化炭素貯蔵などネガティブエミッションのためのマテリアル利用も例示されています。そこで、本研究会では、社会全体でカーボンニュートラルという大きな目標に対して、林業・木材産業がどのように対応できるのかを、今一度皆様と考え、再確認する場を設定しました。

本研究会では、グリーン成長戦略のなかで林業・木材産業に期待されていることを確認し、大量の炭素を長期間貯蔵する木材利用技術として“高層建築物等の木造化”や“木材の耐久性”に関する話題提供を頂きます。一方で、国内での木質資源の利用状況をLCAの観点から俯瞰し、“エネルギー利用vsマテリアル利用”の問題点と課題に触れながら、木材利用が向かう新たな可能性について最新の研究開発計画をご紹介します。

今回は2年毎に開催される日本木工機械展2021におけるセミナーとしての開催でもあります。本来であれば、展示場内の会場で開催するところですが、新型コロナウイルスの感染拡大の状況を踏まえ、全面WEBでの開催となりました。展示会のセミナーとしては、ウェブサイトにおいて録画配信を行う予定です(10月9日、10日)。日本木工機械展2021はポートメッセなごやにて開催され、国内外の優秀な木材加工機械・林業機械および木質系再利用機器ならびに関連製品等が一堂に展示・紹介されます。ご都合のつく方におかれましては、展示会にも足をお運び頂き、大型木工機械のダイナミックなパフォーマンスや大学・公設試験所などの最新の研究成果も是非ご覧ください。

本研究会に参加を希望される方は、【別紙2】の参加申込み用紙に必要事項をご記入の上、事務局宛に郵便又はE-mailにてお申込みをいただきますようお願い申し上げます。

敬具

記

- 【日時】 令和3年10月8日(金) 13時00分～16時30分
(10月9日(土)、10日(日) 日本木工機械展 2021 ウェブサイトにて録画配信)
- 【会場】 オンライン(接続先はお申込み後にお知らせいたします。)
- 【主催】 産総研コンソーシアム 持続性木質資源工業技術研究会
- 【協賛】 京都大学生存圏研究所 男女共同参画推進委員会
- 【後援】 産総研マルチマテリアル研究部門、中部科学技術センター(予定)
- 【プログラム】 別紙1
- 【参加費】 無料
- 【追記】

- ・同一機関から多数参加者される場合、講演要旨集の配布部数を上限3部とさせていただきます。
- ・日本木工機械展 2021 へのご来場およびウェブサイトにおける録画配信をご覧になる場合は、以下の URL に記載の方法による**事前登録(無料)が必要です。**
<https://mokkiten.com/visitors/visitor-registration/>

プログラム

『カーボンニュートラル社会に向けて木質資源を考える』

13:00～13:05 開会挨拶・趣旨説明

13:05～13:35 『「グリーン成長」に向けた木材産業の戦略』

本年6月に閣議決定された新たな森林・林業基本計画においては、森林・林業・木材産業による「グリーン成長」を掲げ、森林を適正に管理して、林業・木材産業の持続性を高めながら成長発展させることで、2050年カーボンニュートラルも見据えた豊かな社会経済の実現を目指すこととしている。その実現に向けた木材産業分野の施策の方向性について解説する。

林野庁 木材産業課 課長
齋藤 健一

13:35～14:15 『脱炭素社会を目指す〈街を森にかえる〉研究・技術開発(W350計画)』

住友林業は、創業350周年にあたる2041年に〈街を森にかえる環境木化都市〉の実現を目指し、研究・技術開発構想〈W350計画〉を始動しています。建築構法・耐火技術・木質部材や資源となる樹木の開発など実装可能な技術から未来につながる技術まで、木の価値を高める最新の研究・技術をご紹介します。

住友林業株式会社 理事・筑波研究所長
中嶋 一郎

14:15～14:55 『外構用途への木材利用 ～木材保存が担う役割～』

現在、我が国の人工林は成熟期を迎え、大径化した樹木が利用される時を待っている。これらを木材・木質材料として加工し、住宅等建築物やデッキ、木塀といった外構材などに利用することで、カーボンストックが確保される。本講演では、非住宅用途、特に外構用途で木材を長期間使う上で必要となる木材の耐久性について解説する。

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所
企画部研究企画科長 大村 和香子

-----休憩-----

15:05～15:45 『マテリアルフロー分析やLCAに基づく木材利活用』

木材は適切な管理を行って利用すれば、持続可能に供給できる資源である。その利用にあたっては、長期的な資源管理、また、より低環境負荷な利用の在り方を検討する必要がある。本講演では、講演者がこれまでに実施してきた、長期的な木材資源の供給可能量の推計や、木材ライフサイクルの各プロセスにおける環境負荷発生量の分析などについて紹介する。

県立広島大学 生命環境学部 環境科学科
准教授 小林 謙介

15:45～16:25 『 宇宙機の材料としての木材と宇宙暴露試験 』

2023年に小型の木製人工衛星の打ち上げを計画している。小型人工衛星を投入予定の地球低軌道は高真空だけでなく、銀河宇宙線、太陽高エネルギー粒子、真空紫外線や原子状酸素などの材料の劣化要因がある。木製人工衛星の設計を目的として、国際宇宙ステーション(ISS)で実施予定の船外暴露試験を説明する。

京都大学 農学研究科 森林科学専攻
准教授 村田 功二

産総研コンソーシアム持続性木質資源工業技術研究会
第46回研究会『カーボンニュートラル社会に向けて木質資源を考える』
参加申込み

申込み締切り 令和3年10月7日(木)

お名前

勤務先

所属

(〒)

連絡先

電話

E-mail

【参加日および参加形態（どちらかに☑をお願いします）】

10月8日(金) リアルタイム配信

接続先のE-mail（申込者と同じ場合は記載不要）
※2名以上で参加の場合は、個別にお名前とE-mailをご記入ください。

10月9日(土)、10日(日) 木工機械展 2021 ウェブサイトでの録画配信

《お申込み・お問い合わせ先》

〒463-8560

名古屋市守山区下志段味穴ヶ洞2266-98

国立研究開発法人産業技術総合研究所 中部センター内

産総研コンソーシアム持続性木質資源工業技術研究会 事務局

TEL: (052) 736-7575 FAX: (052) 736-7533

E-mail: jizokusei-mokushitsu-ml@aist.go.jp